

淑徳大学年報 基本方針

淑徳大学自己点検・評価委員会

2020年1月の大学自己点検・評価委員会によって、本学の自己点検・評価の指針が策定されました。この指針は淑徳大学の自己点検・評価を行うための基本的な考え方や標準的方法を示したものです。この指針に基づき、本学の自己点検・評価の仕組みは2020年度から大きく見直しが見なされています。

自己点検・評価の指針に基づいた自己点検・評価結果を集録したこの大学年報が、本学の内部質保証に資する取組みとなることを期待します。

— 基本方針 —

【趣 旨】

- 大学年報は、内部質保証に関する方針に基づき、恒常的に実施される自己点検・評価活動の一環（軸）である。
- 大学年報は、高等教育機関として教育研究活動等の不断の改善と向上のために組織的に行う自己点検・評価活動を取りまとめ、学内外に広く公表するためのものである。
- 大学年報は、教育研究活動等の取組みや改善活動を把握し、本学の内部質保証活動の証左とするため、下記の事項について集録を行う。
 - ①大学の基本方針（淑徳大学ヴィジョン、三つの方針、大学基準ごとの方針）
 - ②大学の自己点検・評価活動（自己点検・評価サイクル、外部評価、成果指標）
 - ③大学、学部・学科、研究科・専攻、各委員会、大学附置機関等の自己点検・評価報告書
 - ④内部質保証及び自己点検・評価活動の証左となるデータ
- 旧基本方針では、大学全体の教育研究の取組み・進捗状況の掲載を目的としたが、新基本方針では内部質保証活動の証左とするため、それらの実行状況を自己評価し、どのくらいの成果が得られたか等まで踏み込んで記載する。

【体 制】

- 年報の発行については自己点検・評価を主管とする「大学自己点検・評価委員会」が、大学組織・委員会、大学附置機関及び学部・研究科自己点検・評価委員会と連携し、取り組んでいく。
- 具体的な編纂実務については、大学自己点検・評価委員会のもとに「大学年報編集実務委員会」を設ける。

以 上

発刊にあたって

淑徳大学学長 山口 光治

2020（令和2）年度の淑徳大学年報が、みなさまのご協力を得てこのほど発刊に至りました。執筆や編集、取りまとめにとご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

本年報を発刊するにあたり、まず触れておかなければならないことは、本学に限ることではありませんが、2020年という年が地球規模で新型コロナウイルスの影響を受けた年であるということです。そして、いまだにその感染拡大が続き、私たちが当たり前で過ごしていた生活を一変させ、経済活動や産業活動へはもちろんのこと、各方面へ多大な影響を与えました。日々の暮らし方や私たちの教育の在り方まで変えてしまいました。

本学では、4月の入学式は中止となり、代替的にWEBによるお祝いのメッセージを配信する形になり、特に前期の授業では「講義資料・課題提示方式」による遠隔授業が多くなりました。また、全学生のWi-Fi環境やPC等が揃っていないため「オンデマンド配信方式」や「リアルタイム配信方式」の遠隔授業は限られた科目に止まりました。その後、感染状況の動向を見ながら、対面方式の授業の実施やICTが活用できるようなサポートを進めてまいりましたが、この一年を通して、改めて本学の教育の在り方を見直す機会となりました。

このような過酷な状況の中であっても、学修者本位の教育改革を止めることなく、一步ずつ進めていこうと取り組んだ成果を、本年報にまとめました。大学年報は、内部質保証に関する方針に基づき、恒常的に実施される自己点検・評価活動の一環（軸）であります。それは、高等教育機関として教育研究活動等の不断の改善と向上のために、組織的に行う自己点検・評価活動をとりまとめ、学内外に広く公表するためのものであります。

本学の教育研究活動等の取り組みを客観的に見つめ、課題を整理し、次のステージへ向けて歩み続けていくことが、私たち教職員の大切な職務であり、その過程こそが重要であり、それが教育改革であることを改めて認識しているところです。

今年度の年報では、現状の内部質保証システムに合わせて基本方針の見直しを図りました。また、本学第3期成果指標（2020年度～2022年度）のスタートの年であり、その1年目の指標を掲載しております。加えて、大学年報の様式を、「淑徳大学 自己点検・評価の指針」に基づく自己点検・評価報告書の様式と同一の書式に揃えることで業務の効率化を図り、その根拠資料も記載しております。

仏教の真理に「諸行無常」という言葉があります。私たち淑徳大学にあっても、時代と共に変化し、変わらないものは何もありません。常に学修者本位の教育、そして、淑徳ならではの教育のさらなる実現に向けて、教職員の皆様とともに、日々、変わっていかうではありませんか。そして、その足跡を年報にしっかりと残してまいりたいと思います。

2021（令和3）年9月